

大阪府立たまがわ高等支援学校 平成 30 年度 第 2 回 学校運営協議会の概要

- [1] 日時 平成 30 年 12 月 17 日 (月) 午後 1 時 30 分～3 時 00 分
- [2] 場所 大阪府立たまがわ高等支援学校 会議室
- [3] 出席 協議会委員 4 名 事務局員 10 名
- [4] 内容
  - 1 開会の挨拶
  - 2 報告及び意見交換
    - (1) 平成 30 年度「学校経営計画」進捗状況について
    - (2) 「学校教育自己診断」・「授業アンケート」について
    - (3) ①10 期生進路状況
      - ②進路状況について
    - (4) その他
  - 3 閉会の挨拶
  - 4 諸連絡

議事録 (抄録)

《議事録中、●は協議会委員です》

1 開会の挨拶 (校長)

本日はご出席ありがとうございます。師走も下旬に入ろうかという時期、時のたつのが早いことを実感します。1・2 年生は今日から三者懇談、また、公開授業週間です。今回は学校経営計画についてのご意見を、次年度の計画を作成する時期に入っていますので、率直なご意見を、お願いします。また、後半は進路についてもご意見をお願いします。

司会：本日の議長は、酒井様をお願いいたします。

2 報告及び意見交換

(1) 平成 30 年度「学校経営計画」進捗状況について (校長)

めざす学校像、中期的目標については第 1 回で説明しました。学校運営協議会からのご意見につきまして、詳細は HP に掲載されています。

11 月末時点の進捗状況について報告。

- \* 校長ブログは現在 70 回ぐらい、最近では、たまがわランドでの野菜販売、サッカー、陸上の試合の報告など。T-マガジンも作成中。
- \* 外部の関係機関との連携は、懇談会をすでに 4 回、年明けに 1 回、実施予定。外部からの見学は、カウントの仕方にもよるが、約 90 団体に見学いただいた。
- \* 介護等体験は、大学生が小・中・高の教員免許を取るために必要な体験実習で、本校では近畿大学より今年度すでに 3 回、各 30 名程度実施済み。学生からは、「受け入れてもらっている」という立場もあり、肯定的な評価が多いと感じる。指標としては適

切でないとも感じている。

- \*他校との連携は、「交流及び共同学習推進」のモデル校として、スポーツの領域でトップアスリートを招き、他校の生徒とも一緒にスポーツ教室を実施。先日は、バドミントンの元オリンピック選手を招いておこなった。他校の高校生との交流昼食会も実施した。講師の方からはもっと教えたいことがある、と言っただき、来年度も実施できれば、と考えている。また、部活動では教えてもらったことを早速練習に取り入れている様子。次は1月にサッカーの元日本代表選手に来てもらうことが決まっている。
- \*高等支援校長の5校連携では、8月に1回目を開催し、次は12月に予定している。共生推進教室設置校との連携も、先週、金剛高校の校長が本校を見学に来ていただいた。週に1回、共生推進教室の様子を担当教員がまとめているものがある。
- \*地域に根ざした学校教育活動では、たまがわランドで野菜販売や保育所園児を招いての収穫体験、また、昼食の提供も予定されている。たまがわフェスティバル文化の部の来場者は残念ながら1000人に届かなかった。今年は体育の部と日程が入れ替わっていたことも原因の一つかと思う。
- \*キャリア教育計画の策定は、イノベーション委員会で今年度は「キャリア発達支援」の観点で計画の検証を予定している。子どもたちの自分らしい生き方、長く自分の人生を模索するための計画を、チームを組んで考えたい。2年計画で、今年度は1月から立ち上げ、計画の整理をし、次年度から策定を始める。
- \*授業改善については、12月に校内授業研究月間を設け、初任教員の研究授業などを実施した。濃密な研究協議に手ごたえを感じている。もちろん改善点はあるので変えていくところを考え、「たまがわモデル授業」を構築していきたい。
- \*朝と帰りの時間帯を自立活動と位置付けて、認知の促進のトレーニングなどを取り入れている。今は授業時間としてカウントしていないが、授業として位置づけてカウントし、さらに充実していく方向で相談している。
- \*部活動の加入率80%は達成しているが、特に1年生の加入率が低いことを懸念している。大阪の競技スポーツへの理解は福祉的なイメージが強いが、もっと競い合う面が前面に出てもよいのではと個人的には思っている。福井国体で卓球、陸上、選抜メンバーであるがサッカーに選手として出場した。また、全国レベルではバスケットボール、サッカーが大会出場をしている。
- \*校内研修は回数だけでなく内容も充実しているが、一方で働き方改革とのバランスも考えなくてはいけないため、今後内容を精選していく。
- \*人材育成については、経験豊かな教員が新転任の教員をサポートしている。本校は教育目標がはっきりしているのも、教員の目標設定にぶれがないのが強みだと考える。
- \*学校教育自己診断では、「学校に来る」ということを大切にしたい。今年度は、1年生の欠席が多いことを心配している。自己診断の結果は第3回で報告する。
- \*働き方改革について、現時点で時間外勤務が昨年度より1時間減じているとはいえ、これから選抜や3年生の卒業に向けて忙しくなる時期。時間もだが、まさに働き方の

質も大切だと思っている。教育センターでのアンケートでは、同僚性、職場での意見交換、愚痴を言い合える、チームティーチングでお互いに評価ができる、という項目があがっている。本校は同僚性が比較的高いと思うが、それでもまだまだ子どもを主語にしてもっとフラットな意見交換ができるように私自身も努めたい。

(2)「学校教育自己診断」・「授業アンケート」について(校長)

今回は資料の紹介をします。

\*学校教育自己診断アンケート

今回は項目の紹介のみ。第3回でアンケート結果を報告するので、その時に項目についてもご意見をいただきたい。教員はすでに実施済みで全員が提出した。保護者にもできるだけご協力いただけるようお願いしている。

\*授業アンケート

教員の評価は生徒・保護者のアンケートを踏まえるように、と条例で定められている。本校では生徒のアンケートをまとめている。個人情報なので取り扱うのは管理職のみ。数値ではなく大きく全体をみる。支援学校の場合は、極端に高い、低いがあった場合は校長が授業を見て再評価するための参考資料として捉えている。

(1)(2)について意見交換(司会:酒井委員)

- 委員 : 学校経営計画の進捗状況について、見学団体の数が90団体に伸びている理由は、また、部活動の加入率で1・3年生が低いこと、1年生の欠席が多い理由は何か。  
校長 : 見学団体は、数え方の違いもあるかもしれない。見学に来られた団体の中で、事業所を1つと数えると90団体となる。次年度は団体としてのカウントの仕方や指標を変えてもいいのでは。  
校長 : 部活動については、経年比較はできない。1年生の欠席が多いことについては、1つは生徒の多様性が考えられる。小・中学校で不登校だった生徒の割合が、例年に比べ今年の1年生は高かった。  
事務局員 : 中学校の指導要録を見ると、正確な数はわからないが、1年生の状況では不登校の生徒が例年は1、2人のところ4、5人あった。  
校長 : 部活動では、学校生活はなんとかがんばることができるけれど、部活動まではがんばれない。また、遠くから通っている生徒も多いので、学校の授業が終わってから帰宅しても5時、6時になることも要因かもしれない。
- 司会 : 校長先生のブログは3日に1回ぐらいの更新ですか。  
校長 : 10月は少し体調をくずし、更新日数が少なくなったが、ブログへの掲載は楽しみのある仕事でもある。発信することは大切だと考える。
- 司会 : 同僚性の強みについては、私のところでも悩んでいる。若い人が困ったときに

誰がスーパーバイズするか。また、学校教育自己診断のアンケートについて、去年は教員の回収率が少なかったようですが。

校長 : 今年はずいぶん 100%をめざし、回答の時間を設定するなどし、教員も協力して全員が提出した。

●委員 : 卒業して就職したけれど辞めて、府庁のハートフルオフィスに行ったけれど、1年ぐらい経つとうまくいかなくなる。関係がよくない人ができて、どう改善すればいいか周りの方も考えてくださるけれど、本人が「行けない」となってしまう。

司会 : 卒業後の就労継続のあり方について、どう解決していけばいいのか難しい。職業準備性とマッチング、職場環境も関係する。就労継続について5段階のピラミッドがあるが、その真ん中ぐらいに「人間関係」がある。学校では難しい面もあるかもしれない。集団がにがてな人が多いので、できるだけ集団でワークをする、また、極端ににがてならあまり関わらないようにする、など。

●委員 : 離職率について、5年、8年、10年、とポイントがあると思う。人間関係の他にも、仕事の内容が変わる、あるいは変わらない、ということもしんどい。また、49社で新規実習をしているが、それだけの数の新規開拓はすごいと思う。地域性や多様な生徒へのマッチングなどを考えると、一保護者としてはお礼を言いたい。職場の人間関係は、本人がどれだけ作っていいのか、在学中に人間関係の力を伸ばしてほしい。

司会 : 就労という目標が明確な分、どうしても社会のルールが基本になり、枠にはめてしまう。本人の自主性、主体性を伸ばしつつ環境への適応力をつけるため、枠にはめすぎてもはめなさすぎてもいけない。たまがわの卒業生は、礼儀も正しいし社会のルールも守れるが、踏ん張る力が弱いと感じる。本来持っている力を発揮するにはどうしたらいいのか考えたい。

### (3) 進路支援部より (事務局員)

#### ①10期生進路状況

今年の3月に卒業した10期生について、本校、共生合わせて66名卒業、就職59名、職業能力開発施設3名、障がい者福祉事業所3名、未定1名。就職59名のうち、自己開拓での就職が2名。

離職率10.1%について、就職59名のうち現在6名が離職した。支援学校では生徒の数に対して教員の数が多く、丁寧に関わることができる。たくさん関われば関わるほど、就職後の支援が少ない中で就労を継続するのが難しくなっている。どういった支援が必要なのか、自分自身で解決できる力を獲得して卒業しないと、早い時期での離職につながってしまうのでは。現在も教員やジョブコーチが入って、なんとかつながっているケースもある。

#### ②進路指導状況

1年生について。6月に職場ガイダンス、2ヶ所での職場見学と外部講師を招いてのキャリア学習を実施した。教員からの話だけではなく、職場の方や外部講師の話を聞いて11月の職場実習につなげる。

11月の職場実習は61名が59社で実施した。学校近隣の、以前からおつきあいのある会社での実習が多い。教員の職場実習にむかう雰囲気づくりがうまくできた。働くことについていいイメージを持って臨むことができた。

2年生について。6月に2週間、11月に2週間の実習を実施した。1年生は得意なことを中心に成功体験になるよう実習をするが、2年生は少しにがてなところも含めて、いろいろなタイプの職場を経験することによって、自分は何が得意かにながてか、判断する材料にするため、あえてミスマッチとなるような状況もある。

今年の2年生は精神面での課題があると感じている。これまでの生徒に比べると全体性よりも個別の支援が必要だった。2回の実習を踏まえて12月、3月に三者懇談を実施し、3年生のマッチングにつなげる。

3年生について。昨年までは生徒数に対してぎりぎりの数の実習先しかなかったが、今年は90社以上の実習先があった。6月の実習で40名ぐらいが次の段階に進んだ。実習の前には、5月に卒業生の職場に訪問して卒業生からお話を聞く機会もあった。また、外部講師のキャリア学習も実施した。

現在の進路状況は、現時点で就職が見込める生徒がおおよそ50名、学校生活が不安定なため実習先が未定の生徒が7名いる。就職が難しくても職業能力開発施設や福祉事業所につないでいきたい。

### (3) について意見交換

司会 : 10期生の進路状況について。スーパーマーケットで、日曜日を休みたいという人は毎年いる。鉄道会社で、元旦を休みたい、と毎年もめる人もいた。平日は働くが土日は働きたくない。職業リハビリテーションセンターでも、普段の訓練は平日だけれどあえて土曜日にイレギュラーで来ることもやってみている。在校時はどんな生徒だったのか。

事務局員 : 自分の思い通りにならないと、違うところに理由をつけて自分の気持ちを主張するところがあった。

事務局員 : 職業リハビリテーションセンターの離職率はどれぐらいか。

●委員 : 50人就職して1人辞めるぐらい。去年は2人辞めている。知的障がいの人より精神障がい、発達障がいの人が多い。一度リズムが変わると適応できない。

事務局員 : アフターケアはどれくらいおこなっているか。

●委員 : 会社と人による。必要な人には手厚く、そうでない人はSOSがあるまで連絡しない場合もある。

- 委員 : 少し気に入らなければ責められる、言い返せない、逆らえない、となって、ストレスや精神面の不調で辞めてしまう。ストレスに強い生徒を育てられたら。人間関係が難しい時代。昔のように汗をかいてする仕事は少なくなり、精神面が大切。どうすればいいのか難しいけれど。
- 委員 : グループミーティングなど、困ったときにどうすればいいのか話し合うような授業があれば。
- 司会 : SST を取り入れているところもある。
- 委員 : 障がいの状況が比較的軽いから我慢する、というのではなく、負担としては一緒、というのが周りの人に伝わらない。気分転換にトイレの時間をもらおうと「トイレが長い」と言われる。どうしたらいいかわからない。指導員さんやその上の人にも伝えたが、解決には向かわなかった。
- 司会 : 就職に向けてのステップアップが必要では。トイレが長いのはいいと思うが、会社に行ったら困るので、訓練として言われたのでは。
- 委員 : 本人が理解できず、気持ちの整理をつけようとしたがうまくいかなかった。
  
- 委員 : 部活動の参加について。昔は近所の友達と遊んでいる中で覚える事もあったが、今は子どもが遊んでいる様子を見なくなった。他のグループとの付き合い方を学ぶ場がなくなった。たまがわはたくさんの生徒が部活動に参加しているので、他の学校に比べたら精神的に強い生徒になっていると感じる。
- 委員 : 人間関係では妥協することも大切。がまんは避けて通れない。
  
- 委員 : 2年生の実習先のマッチングは勇気ある決断だと思う。社会に出たらうまくいかないこともある。授業アンケートも、生徒から否定的な評価を出されたからと言って、先生の評価が悪いとは思わない。こんなに生徒に気を遣わなくてもいいと思うが。
- 委員 : 子どもの教育では、学校と保護者との連携で強い力をつける。
- 委員 : 学校だから正しい、しっかり、という話になるが、現実社会はいろいろなことに対応していかなければならない。反面教師も大人になる過程では必要。先生方にはアンケートにとらわれず勇気をもって授業を展開してほしい。

#### 4 閉会の挨拶（校長）

本日はありがとうございました。また、活発な意見交換もありがとうございました。今日の意見を踏まえて次年度の計画を立てたいです。

#### 5 諸連絡

今回は3月に実施の予定。日程調整をします。